

ブラジルの多国籍メーカーがインターネットとクラウドのデータを保護

McAfee® の Web 保護と McAfee® MVISION Cloud で
インターネット アクセスを保護し、クラウドへの移行を加速化



WEG Industries

顧客情報

ブラジルを拠点とし、主にエネルギー産業用の機器やサービスを開発・製造する世界的製造メーカー。

業種

製造業

IT 環境

135 か国以上に 19,000 名のユーザー、12 か国に製造工場が存在。

ブラジルのジャラグアー・ド・スーを拠点とする WEG Industries は、電気モーター、発電機、変圧器などのエネルギー生産用製品を製造するメーカーです。このほかにも、農業、鉱業、鉄鋼、製紙、水、石油ガス、エタノールなどの産業向けの機器も開発、製造しています。WEG は買収により急速な成長を続けています。そのため、同社のサイバーセキュリティチームにとって知的財産や機密データの保護が最優先課題となっています。

McAfee とつながる



ケーススタディ

Web の保護を強化し、従業員が Microsoft Office 365 などの SaaS (Security-as-a-Service) アプリケーションを安全に利用できるようにするため、同社は McAfee を採用することになりました。

クラウドへの迅速かつ安全な移行

WEG Industries の最高情報セキュリティ責任者である Pierre Pereira Rodrigues 氏は 5 名から構成されるチームを指揮し、12 か国にある製造工場を含む企業全体のサイバーセキュリティとガバナンス・リスク・コンプライアンス (GRC) を監視しています。

「私たちはいま、サイバーセキュリティについて 3 つの課題を抱えています。1 つは、従業員がどこにいても安全にインターネットにアクセスできるようにすること。もう 1 つは業務でクラウドを安全に利用できるようにすること。最後が知的財産などの機密情報を保護することです」と Rodrigues 氏は述べています。「弊社では現在、急速に事業を拡大しています。最近 3 つのソフトウェア会社を買収し、新たにデジタルビジネス部門を立ち上げました。こうした状況が課題への対応を複雑にしています。情報セキュリティには迅速な対応が求められています。」

Rodrigues 氏は次のように述べています。「たとえば、弊社ではクラウドの導入を進めています。私たちは、サイバーセキュリティ上の制約でこれはできないと、頭から否定するのではなく、できることを考えてみましょう、と前向きに検討するように努めています。そのためには、将来を見据えた革新的なビジネスを展開しながら、セキュリティを犠牲にしないテクノロジーが必要です。」

長期的な視点で最適な戦略とビジネス オプション

インターネットにアクセスしているのか、Office 365 などのクラウド アプリを使用しているかにかかわらず、WEG Industries のユーザーを常に同じレベルのセキュリティで保護するため、Rodrigues 氏のチームは Web ゲートウェイとクラウド アクセス セキュリティ ブロカー (CASB) ソリューションを検討し始めました。主要なベンダーのソリューションを評価した結果、この 2 つのソリューションに McAfee の技術を採用することになりました。同社が McAfee を利用するのは今回が初めてです。

「戦略的な意味でも、ビジネスバリューの面からも McAfee が最も理にかなった選択肢でした」と Rodrigues 氏は述べています。「McAfee の導入により、現在のデータ保護とクラウド導入の問題が解決されました。また、セキュリティシステムの統合強化と脅威関連情報の集約と共有により、時間の短縮とコスト削減を実現するための準備が整いました。McAfee はサイバーセキュリティのリーダーであり、様々なテクノロジーを提供しています。今すぐ必要なものだけでなく、今後導入を計画しているものも揃っています。そこで、Web ゲートウェイや CASB ソリューションだけでなく、ビジネスの安全性を今後も維持できるパートナーを選択しました。」

課題

- 世界各地の従業員がどこからでも安全にインターネットを利用できるように保護する。
- 情報漏えいに備えながら、ビジネスをクラウド環境に移行する。
- 知的財産などの機密情報を保護する。

McAfee のソリューション

- McAfee® Client Proxy
- McAfee® MVISION Cloud for Office 365
- McAfee® Web Gateway
- McAfee® Web Gateway Cloud Service

ケーススタディ

Web トラフィックを監視し、マルウェアを除外

WEG Industries は、ローカルのインテント分析と、時間や場所に依存しないクラウドベースの保護を組み合わせたハイブリッドな Web 保護ソリューションを導入しました。オンプレミスの McAfee Web Gateway アプライアンスで 46 か所の支社を保護し、McAfee Web Gateway Cloud Service で自宅や外出先からアクセスするユーザーを保護します。同社では、19,000 人のエンドユーザーが社内外からインターネットにアクセスしています。このため、McAfee の Web 保護を使用して会社のインターネット使用ポリシーを適用しています。社内にはいないユーザーの場合は、McAfee Client Proxy がホスト マシンの位置に基づいて適切な Web ゲートウェイに動的にリダイレクトします。

「WEG Industries の Web トラフィックの 80% は SSL で暗号化されているので、SSL トラフィックの検査は必須です。しかし、これまで使用していた Web ゲートウェイソリューションには SSL インスペクション、ゲートウェイでのマルウェア対策、アプリ制御、インターネットトラフィックの分類機能がありませんでした。McAfee のソリューションは、これらの機能をすべて搭載しているので、Web セキュリティと全体的なセキュリティ状態が劇的に改善しました。業界レポートで McAfee Web Gateway が非常に高い評価を受けているのは、こうした理由があるのでしょうか。」と Rodrigues 氏は述べています。

Office 365 の保護とクラウドへの移行の促進

「WEG ではクラウド サービスへの移行を進めています。新しいプロジェクトを提案するときには必ず、クラウド オプションを最初に提示するようになりました」と Rodrigues 氏は述べています。「しかし、クラウドには重大なセキュリティリスクがあります。そのため、クラウドへの移行は慎重に進めています。データ保護のコントロールをオンプレミスと同じレベルにすることが私たちの目標です。McAfee CASB を実装することで、その実現が可能になります。また、その過程で SaaS サービスをより簡単に実装できるようになると思います。」

McAfee MVISION Cloud for Office 365 を展開した WEG Industries では、企業データを不正アクセスから保護するアクセス制御を実装しました。McAfee CASB は、指定されたユーザー属性と許可された位置情報を持つ認証済みユーザーにのみ Office 365 へのアクセスを許可します。Rodrigues 氏は、データ損失防止、コラボレーション制御、アクティビティ監視、ユーザー行動分析、マルウェア検出などにも MVISION Cloud for Office 365 を利用していく予定だと話しています。

McAfee MVISION Cloud for Office 365 と McAfee Web Gateway の統合も、WEG Industries の短期ロードマップに含まれています。これらのソリューションと McAfee® ePolicy Orchestrator® (McAfee® ePO™) 管理コンソールを統合することで、ブラジルのデータ保護基本法 (LGPD) などの法規制対応を効率的に進めることができます。さらに、McAfee CASB とデータ損失防止 (DLP)、モバイル デバイス管理 (MDM) ツールを統合する計画もあります。

結果

- SSL で暗号化されたトラフィックを検査し、送受信される Web トラフィックの保護を強化
- ファイアウォールの外部にも会社のインターネット使用ポリシーを適用
- アクセス制御により、Office 365 にある会社のデータに対する不正アクセスを阻止
- 将来の SaaS アプリケーションの導入を容易にするための基盤を構築
- システム間で脅威情報を相互に共有し、デバイスからクラウドまでを網羅するセキュリティ基盤を構築

ケーススタディ

デバイスからクラウドまでを保護する統合セキュリティの基礎

WEG Industries では購入前から McAfee の Web 保護と McAfee MVISION Cloud の採用が McAfee 統合セキュリティプラットフォームの導入につながると考えていました。

「McAfee Web Gateway と McAfee CASB は単独のソリューションとして利用しても大きなメリットがありますが、McAfee のフットプリントを拡大し、McAfee の統合セキュリティプラットフォームを利用すれば、その何倍ものメリットがあります」と Rodrigues は述べています。「こうした理由で、ロードマップでは次に McAfee® Threat Intelligence Exchange を導入して、ローカルとグローバルの脅威情報を相互に交換し、McAfee® Advanced Threat Defense の動的 / 静的なサンドボックス機能を利用することを計画しています。これらの製品を導入済みの McAfee 製品と連携することで、付加価値を高め、セキュリティ状態を強化することができます。」

Rodrigues 氏は、インフラストラクチャにテクノロジーとツールを追加すると、セキュリティ管理の負担が増大し、全体的な複雑さが増してビジネスに悪影響を与えてきましたが、McAfee は違いました。

「テクノロジーを統合し、脅威インテリジェンスを集約する McAfee のセキュリティプラットフォームは、管理の負担とコストを削減し、リスクを最小限に抑え、将来の変化にも柔軟に対応できる環境を構築できます。このアプローチは、当社の戦略的ミッションと完全に一致しています」と Rodrigues 氏は述べています。

「戦略的な意味でも、ビジネスバリューの面からも McAfee が最も理にかなった選択肢でした ...Web ゲートウェイや CASB ソリューションだけでなく、ビジネスの安全性を今後も維持できるパートナーを選択しました。」

—Pierre Pereira Rodrigues
WEG Industries
最高情報セキュリティ責任者



〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂 1-12-1
渋谷マークシティ ウエスト 20F
Tel. 03-5428-1100 (代表)
www.mcafee.com/jp

McAfee、McAfee のロゴ、ePolicy Orchestrator および McAfee ePO は米国法人 McAfee, LLC または米国またはその他の国の関係会社における登録商標または商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。Copyright © 2019 McAfee, LLC. 4385_1219
2019年12月